マングース、ノネコの情報を集めています

対策を効果的に進めるため、目撃情報を集めています。北上防止柵より北でマングースやノネコを見つけたら、環境省やんばる野生生物保護センターまで情報をお寄せください。
連絡先：０９８０－５０－１０２５（ファックス：０９８０－５０－１０２６）

撮影：糸数多寿子

全長は50～60cm

しっぽは全長の半分くらい

ペットの幸せはやんばるの生きものたちの幸せ

すてられたイヌやネコは、マングースと同じようにやんばるの貴重な生きものを食べてしまいます。やんばるの森で暮らしていくことは幸せなことではなく、十分なエサを食べられず、交通事故や病気で命を落とすことも少なくありません。ペットは決してすてないでください。

国頭村、大宜味村、東村では、このような不幸なネコを減らすため、2005年４月１日より**「ネコの愛護および管理に関する条例」**を施行しました。この条例により飼いネコは、マイクロチップの埋め込みによる登録が義務づけられています。むやみに繁殖させず室内飼育に努めるなど、適切に飼育しましょう。ペットの幸せは、やんばるの生きものたちの幸せにもつながるのです。

撮影：NPO法人どうぶつたちの病院

マイクロチップの埋め込み処置

環境省と沖縄県によるマングース対策は外来生物法に基づいて実施しています

外来生物法に関するホームページ

http://www.env.go.jp/nature/intro/

環境省 那覇自然環境事務所
〒900-0027 沖縄県那覇市山下町5-21 沖縄通関社ビル4F
電話：098-858-5824／FAX：098-858-5825

沖縄県 文化環境部 自然保護課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
電話：098-866-2243／FAX：098-866-2240

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH SOY INK 環境にやさしい大豆インキを使用しています

やんばるのマングース対策

やんばるの貴重な生きものたちを守るために

【和　　名】ジャワマングース
【学　　名】*Herpestes javanicus*（ヘルペステス・ヤヴァニクス）
【原 産 地】西アジアから東南アジアにかけて広く分布している。
【全　　長】オスは約60cm、メスは約50cm
【体　　重】オスは0.5～1.0kg、メスは0.3～0.6kg
【導　　入】1910年に13～17頭が那覇市近郊で最初に放された。
【食　　性】主に昆虫やトカゲなどを食べるが、鳥やほ乳類も食べている。
ハブ対策を目的に導入されたが、ハブを好んで食べてはいない。
【生　　態】単独で行動し、昼間に活動する。年に１回、２～３頭を出産する。
【生 息 数】2003年度には沖縄島全域で、約3万頭が生息していると推定されている。
【病　　気】レプトスピラ菌、サルモネラ菌などの感染症や寄生虫など
人やペット、家畜にうつる恐れのある病気を持っている。

環境省　沖縄県

かけがえのない豊かなやんばるの森

奄美から沖縄にかけての島々は、大陸から離れて100万年以上経っていると考えられ、他の地域では絶滅してしまった珍しい生きものが取り残された地域です。沖縄島のなかでもシイ、カシなどの木々が多く残されたやんばるの森には、貴重な生きものがたくさん生息しています。

ヤンバルテナガコガネ

アカヒゲ

アマミヤマシギ

ヤンバルクイナ

リュウキュウハグロトンボ

クロイワトカゲモドキ

イボイモリ

リュウキュウヤマガメ

ホルストガエル

ナミエガエル

イシカワガエル

ハナサキガエル

肉食ほ乳類のいない生態系

これらの生きものたちはそれぞれにかかわり合いを持って、やんばる特有の生態系を形づくってきました。もともとやんばるにはマングースやネコのような肉食のほ乳類はいませんでした。そのため、やんばるの生きものはマングースのような肉食動物から身を守るすべを持っていません。

つれてこられたマングース

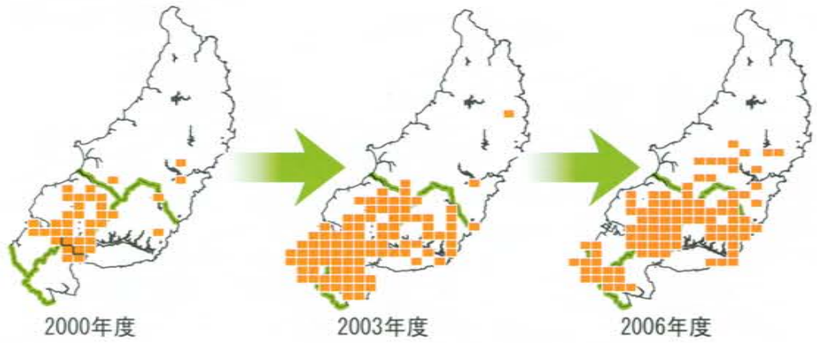
マングースは1910年に沖縄島に持ちこまれた外来種です。那覇市街地から次第に広がってきて、1990年代には50km以上も離れた大宜味村の塩屋湾を越えて、やんばるの森に侵入してきました。マングースは昆虫やトカゲなどの小さな生きものをたくさん食べますが、鳥の卵やヒナなども好んで食べます。現在では、沖縄島だけで約3万頭ものマングースが生息していると考えられています。

やんばるの生態系の危機

このままマングースが増えてやんばるの生きものたちが食べられ続けると、生態系のバランスはくずれ、やんばるの森らしさは失われてしまいます。やんばるの生きものたちを守り、生態系を復元させていくためにも、マングースやノネコといった外来種をやんばるから取りのぞく必要があります。

これまでのマングース対策

環境省、沖縄県等は、国頭・大宜味・東の3村で、マングースの捕獲を行っています。2000年度から2006年度(2007年3月末)までに、合計8,185頭のマングースを捕獲しました。同時に、マングースを効率的に捕獲するための研究も行っています。



マングースが捕獲された地域

マングース分布域の変化(分布域は次第に広がり、北部での捕獲が増えてきている)

捕獲したマングースの数

	捕獲数(頭)
2000年度	373
2001年度	399
2002年度	2,180
2003年度	2,110
2004年度	1,258
2005年度	956
2006年度	909
合計	8,185

中南部に高密度に分布するマングースがやんばるの森に侵入してくるのを防ぐため、沖縄県が中心となり、大宜味村塩屋から東村福地ダムにかけて、マングースの北上を防止するための柵(さく)を設置しました。この柵の設置により、特に貴重な生きものが多数生息している柵の北側で捕獲作業を重点的に行うことができるようになりました。

マングースの北上を防止するための柵

さらなる対策が必要です

これまでのマングースの捕獲がなかったら、やんばるの生態系は今以上に大きなダメージを受けていたことでしょう。しかし、残念ながら今のところ分布域の拡大は抑えられていません。今後も、道路沿いはもちろん林内にもワナを増やすなど、さらなる対策が必要です。マングース対策へのご理解とご協力をお願いいたします。